

別記

審議概要

1 公開案件の審議

(1) 報告1 令和4年度（2022年度）公立高等学校入学者選拔出願状況等について

ア 説明員 唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

資料別記を御覧ください。最初に、「1 総括概要」ですが、「(1) 中学校卒業予定者数」は、推計で41,835人であり、前年度より1,144人増加しています。

「(2) 募集人員」は、全日制と定時制を合わせ、32,860人となっており、前年度より240人減少しています。

「(3) 出願者数」は、全日制と定時制を合わせ、31,368人となっており、前年度より422人増加しています。

「(4) 倍率」ですが、全日制と定時制を合わせた倍率は、0.95倍で、前年度の同期より0.02ポイント増加しています。

「(5) 募集人員に満たない全日制の学校・学科数」は、学校数において普通科と職業学科の学校で減少し、専門学科と総合学科の学校では増減がありませんでした。

「(6) 倍率が1.5倍を超えた全日制の学校・学科数」は、普通科7校など、記載のとおりとなっています。

「(7) 推薦入学者選抜の状況」ですが、推薦標準枠は、9,278人で、前年度より292人増加、推薦出願者数は3,965人で、前年度より6人増加、推薦倍率は0.43倍で、前年度と比べ0.01ポイント減少しています。

「(8) 連携型入学者選抜の状況」ですが、募集人員は470人で、前年度から増減はありません。出願者数は152人で、前年度より5人増加、倍率は0.32倍で、前年度と比べ0.01ポイント増加しています。

なお、連携型中高一貫教育を実施している高等学校には、それぞれの

高等学校と連携している中学校以外からも出願することができるシステムとなっており、「連携型出願者数」は、連携中学校からの出願者数、「連携型一般・推薦出願者数を加えた数」は、連携中学校以外からの出願者数を加えた総数となっています。

「(9) 定時制課程の出願状況」ですが、「募集人員を超えている学校・学科数」は、1校2学科、「出願者が10人未満の学校・学科数」は、13校14学科となっています。

最後に、今後の入学者選抜の主な日程については、「2 今後の主な日程」にお示ししておりますので、御覧ください。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【橋場委員】

中学校卒業者が1,144人増加しているのにもかかわらず、出願者は422人増加ということですが、残りの722人の動向については、どのようにお考えですか。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

正確な数までは把握できていませんが、現状から見ると、中学校3年生の進路の多様化により、私立高校の専願もあり得ますので、そちらに流れている可能性があるかと思います。昨年度から、授業料の無償化等の制度も入りましたので、そうしたことが傾向としてあるのではないかと考えています。

【大鐘委員】

募集人員が減り、それに対して出願者数が増えたことで、倍率が少し上がり、上手く調整されていると感じました。

今年は、入試の大きな見直しがあった最初の年になりますが、当初出願の段階では、あまりその影響は見られないという気もします。ただ、石狩の札幌東高校と札幌西高校の倍率が高く出ているのは、もしかすると、今回、テストの点数が300点満点から500点満点になるということで、何らかの影響があったのかもしれない。

質問ですが、推薦入学者の選抜の状況で、道外からの推薦入学者選抜による出願者の割合が増えています。この理由としては、道外からの推薦入学者を募集する学校が増えたことが、大きな要因の一つになっているということなのではないでしょうか。

また、2に学力検査以降の日程が示されていますが、先ほどお話ししたとおり、今回の大きな見直しにより点数が増えたことで、採点に何らかの影響が出るのではないかと考えています。問題数は、基本的に変わらないということですので、全体の配点が増え、特に、記述の部分の配点が増えることになるとは思います。例えば、採点者によって採点に差が出ないように、どのようなことをお考えでしょうか。採点が効率的にできるのであれば大丈夫かと思いますが、対応についてお聞かせください。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

道外からの推薦入学者の出願については、当初は、北海道の主力産業である農業・水産という学科に絞って受け入れていましたが、昨年、一昨年と、地域連携特例校でも、このシステムを使わせてもらうことになり、その影響で、道外からの推薦で受け入れた数は増えています。

また、例えば、静内農業高校のように、全国的に見ても特別な学科を持っているような高校については、全国から注目が集まるので、出願が多いということも影響していると考えています。

次に、採点の関係ですが、委員御指摘のとおり、今回、記述式の問題が少し増えている傾向があるとは思いますが、少なくとも、3月3日に学力検査が行われ、次の日は採点日になりますし、面接を実施する学校についても、次の日に面接を実施し、土日を挟んで、次の月曜日が採点日となります。そして、予備日を1日設けるので、学校では、1日から2日かけて、採点をするということになります。これまでも、2日かけて採点をするのが基本でしたが、今回も、今申し上げた日程になりますので、学校でも何とか対応できるのではないかと考えています。

また、追検査の関係で、追検査から2日後に合格発表とありますが、こちらについては、昨年度もお話ししたように、本当に受検者が限られ

ているので、その生徒の採点は、短時間で可能です。一様に、採点基準を作っていますので、それに合わせた採点を行えば、そこまで時間をかけなくても選抜を行えるのではないかと考えています。

【川端委員】

今は出願状況の段階ですので、今後、どのように推移していくのかは分かりませんが、先ほどのお話にも出ていたように、国のマイスター・ハイスクール事業を活用しているような特色ある学校に対して、道外の子供たちからも興味を持ってもらっているのは、とても良いことだと思います。来年度も、国において同様の事業が実施され、対象校も増えるということですので、期待したいと思っています。

また、いわゆる進学校では非常に高い倍率が出ている一方、少人数の学校が増え、地方では、倍率が軒並み1.0倍を切っていますが、そのような中で、大空高校のように新しい施策を打っているところは、1.2倍となっており、魅力化を進めて、特色のある取組をしている学校に目を向けてもらっているというのは、嬉しいことです。

一つ質問です。定時制の出願者数が増えたようですが、どのような要因によるものとお考えなのか、教えてください。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

定時制で出願者が多かったのは、市立大通高校です。大通高校は、午前部と午後部をそれぞれ1学科としてカウントすることもあって、倍率が高くなっています。

【川端委員】

分かりました。いろいろな選択肢がある中で、4年間、じっくり時間を使いたいという子供も出てきているのかなと思います。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

≪委員から質問・意見なし≫

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。